

利用する煙草神話

巻後(一)

R C C

×もしある方が、ある會合出席して、ある  
 のおぼろげな事柄、その高深くききし、テイが席  
 をよめるとして。——そしてある、煙草  
 おきて、パイを喫かした時、そのし、テイが、友人  
 が抗議めいた目を向けるか、或はそれ以上、言葉



甘い木の實は熟し、吸めば太陽は地上を照して、  
その甲方はほほえみおめんは主人の心配もなく幸福に  
はまるといふ。しりしりの幸福とたのしみかきあつた。何れ  
自分も足らぬもの拂ふよき世は幸した。

X 神は眠るゝの甲方は火——人間の苦しみ<sup>はな</sup>もあきらめ

火をよそていふ。だが火だけを伴の生ははるはるでな  
かつた。彼は拂いあつた。もう一人の<sup>友</sup>——きこえぬは  
のしほの友である。ものかほしあつた。それと伴は神はか  
おどろいた。

X 或、朝ははなみから花の床の目をおめた。さきと伴

A(4)

は自分のそばにひとりきり人馬のステスマヤゆひ  
そつゝこゝを要りし。そとそ水が生涯の伴  
侶となり女である事を知らず時、彼はどんな神  
の業のしん事があつた。

Xころと男と女のあつたころのころはあつた。

A(5)

花のうらやよ色いんぼき、太陽の光はうらやよいんぼ  
ゆひ、そとそはうらやよいんぼ。男と女は—  
けかれきり時代のP、MとI、Uのようい、その日その日  
あつたはうらやよいんぼ。

Xころと人馬のうらやよいんぼ、いつまをたつたはうらやよいんぼ。





R C

九才のてま。おはようおまをけいけいおまをえ。おはこ  
うとあやうんが言ひしおまをけいけいおまをえおまを  
いようんおまをけいけいおまをえおまをえおまをえ

X 田村はおまをえ。おまをえおまをえ。女はおまをえおまをえおまをえ  
おまをえおまをえおまをえ。おまをえおまをえおまをえおまをえ

おまをえおまをえ。おまをえおまをえおまをえおまをえおまをえ。

おまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえ。

おまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえ。

おまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえ。

おまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえおまをえ。

た煙のたつてしよ。その煙を吸ふ胸も入れなされ  
は、どんな世も、~~たつてしよ~~いんまあわい。  
~~~~~~~~~

Xころいそ女は死んだ。男は女の死骸をうめても男を  
さきでた。さうと女の言葉とあり一本の鈴ふらふ

車ゆきえ、<sup>太陽</sup>雲をひろげな。太陽はのぼつて

このまて世おほひのりた。この世おほひをうけて煙  
を吸ふとあかゆも世へみせ世あつといへきつた。

~~~~~~~~~

あーめつたのかつた。——男は女よりと創めとあつた。  
とのと世見えしん。この世はたはこの神話である。

X(後説)——ゆまの女はたはことを嫌うのひもあつた。それ



